

親子だから、ケンカしても持ち越さん。

下戸の父が作る料理が、

酒好きを魅了する。



一度は大阪に出た家族が、室戸に戻ってきた。呑喰処こまっちゃん家の小松一家だ。

父・隆志は、和食の料理人。オープンキッチンで腕を振るう姿は、熱い職人風。ホールでは、母・美紀と長男・竜之介のツートップが、お客さんの海をスイスイ泳ぐ。

以前は割烹料理店だったが、昨年、朝獲れのキンメや地物の刺身、酒に合う創作料理が自慢のカジュアルな店に生まれ変わった。

大阪では全国から集まる食材や料理を見てきたが、やはり室戸の魚と野菜は最高だ。豊かな自然が育む素材のちからは、他に例がない。「まず、地元室戸の人に愛される店になりたい」「全室女性だけの日もあるくらい」「ありがとうございます!!と声を出すことを心がける」。それぞれの一言から、お客さんを大切に、味にうるさいファンを集める店の顔が見えてくる。

息子が店を継ぐと決め、両親はここが勝負と思い切って改装を決めた。「お客さんと近くなって楽しい」「舞い込んだチャンスと発奮した」「お客さんが笑顔で帰ってくれたら幸せ」と、作戦成功。若大将は室戸高校時代の甲子園球児だ。「たくましいと思います」と母がうっとり言えば、ぶっさらばうに「見た目だけでしょ」

呑喰処 こまっちゃん家
右から 小松竜之介・隆志・美紀

室戸 じと、 進む。